

研究所だより

第329号
2013年4月8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<2013年度スタート>

穏やかな陽光の中、入学式、始業式が執り行われたことと思います。

新年度を迎え、子どもも教師も夢を持ち、希望に燃え、やる気に満ちあふれているのではないのでしょうか。特に清水中学校は新校舎でのスタートとなり、香しい校舎での学校生活となります。大勢の仲間と共に集団生活が始まります。少人数で過ごしてきた子ども達には不安と期待が入り交じり、戸惑いもあるかと思いますが、教師集団がしっかりと子ども達を支え、楽しく喜びのある集団づくりに邁進して欲しいと願っています。

学校（学級）は子ども達にとって集団生活の基盤です。自分と心の通い合う仲間がいる。その事が学校生活を充実したものにします。一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、安心して生活する権利を持っていることに気づかせ、心の通い合う温かい人間関係を育てていくことが大切です。

そうした面で、私たち教師は、児童生徒の集団を教育していく宿命にあります。集団を活用できる素晴らしい仕事をしています。その集団づくりが私たちの仕事の中心であり、集団づくりができるかどうかの仕事の成否も左右します。良い集団づくりをして、個々の児童生徒を良くして、更に集団が良くなって、個々の児童生徒が更に良くなる良好な環境を作り出すことが大切です。

学校生活で、子ども達が一番長く過ごすのが授業の時間です。この時間が満たされていることが子ども達の喜びとなります。教師の授業力向上とより良い集団づくりは車の両輪です。両輪がうまくかみ合えば互いに相乗効果を発揮していきます。

新しい集団を作り上げていく教師の取り組みがスタートしました。子どもと共により良い集団づくり、授業づくりに心がけていきたいものです。

<家庭訪問で子どもの姿をつかむ>

家庭訪問は、家庭での子どもの様子や保護者の教育要求を聞いて、今後の教育に役立てるために行う、という点をしっかりと押さえておく必要があります。

具体的に押えるポイントとして、

- ・子どもの育っている教育環境から子どもの姿をつかむ。
- ・災害、防災等の緊急時に対応するために、子どもの家の所在地を確認する。
- ・地域、学区全体を観察し、通学路や危険箇所を見て確かめる。
- ・家庭教育力を推し量ったり、家庭からの要望などを聞き取ることで、今後の教育に役立てる。
- ・子どもが家庭に帰ってからどんな生活をしているか、家庭での仕事分担、家庭学習など、親の教育方針を知る。
- ・子どもの病気、けが、進路、友だち関係など、学校では話せないことなども話し合う場になる。

<教育センター>

新しい職員を2名迎え入れました。本年度も宜しくお願ひします。

土佐清水市教育センター職員一覧

教育センター	所長	武政 聖	主管全般
	所長補佐	坂本 孝仁	主管全般補佐、庶務、予算等
	研究所	楠瀬 純一 不破 久善 井上 志保	研究所主管全般 教育支援、調査研究、教育研究集会 研究所庶務、教育相談
	適応指導教室	泥谷 人美	児童・生徒適応相談（あすなろ教室）
	補導センター	田村 公利	少年補導・健全育成
	S S W	兼松 和典 出口 里奈	教育相談全般 教育相談全般

教育研究所、適応指導教室、補導センター、S S Wの4部署が横の繋がりを密にし、連携を保ちながら、児童・生徒を取り巻く教育環境の整備、教職員、保護者等の教育相談体制を確立し、様々な教育分野に対応していきます。先生方には、大いに利用、活用していただければ幸いです。できる範囲の協力と支援をさせていただきます。遠慮なくどんどんお使いください。

<着任挨拶>

出口 里奈（S S W）

S S Wとして4月からお世話になります、出口 里奈 と言います。

迷惑をかけることもあると思いますが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひします。

井上 志保（研究所）

4月より不登校児童生徒支援員・教育研究所事務補助員としてお世話になります井上 志保です。

初めての仕事で分からないことがたくさんありますが、精一杯がんばりますのでよろしくお願ひします。

<本>

D V D：戦争童話集1～4 野坂昭如

鬼の子とゆきうさぎ（アニメ）

H I V・エイズってなに？1～3

ひとみ輝くとき（いじめ問題）

本：さんすう 特別支援学校 小学部知的障害者用

特別支援学校 中学部知的障害者用

国語 特別支援学校 小学部知的障害者用

特別支援学校 中学部知的障害者用

道徳 新小学校道徳指導細案 低・中・高学年

いじめに関する本6冊、他

なお、他の購入本は研究所のホームページをご覧ください。ご利用をお待ちしています。